



アビックス株式会社 様のHPより転載

2023年 東京は新宿の歌舞伎町一丁目に開業した東急歌舞伎町タワーは、国内最大級のホテル × エンタメ施設複合タワーです。

ラグジュアリーなホテルから映画館、劇場、レストランにライブハウス、そしてアミューズメント等々。歌舞伎町タワーはこの街の新しい楽しみ方を提案し、インバウンドにも人気のスポットとなっています。

この歌舞伎町タワーの17階にある、音と光のムードでカクテルを楽しめるバー『JAM17 BAR』の「TERRACE (屋外テラス)」と「SPACE WEST (屋内多目的ルーム)」にそれぞれ設置されたLEDビジョンの音響として、TANNOY QFLEXを中心とするスピーカーシステムが採用されました。(LEDビジョンの設計/施工はアビックス株式会社様)

DSP制御によりカバレッジをコントロールし、狙った箇所だけに最適な音響を届けるビームステアリングスピーカーのQFLEX。同じスピーカーでも屋外と屋内ではアプローチの仕方が変わります。音響機器の選定から施工/調整までを行った日本レディフュージョン株式会社の武内氏に詳しくお話をうかがいました。

TERRACE (テラス)

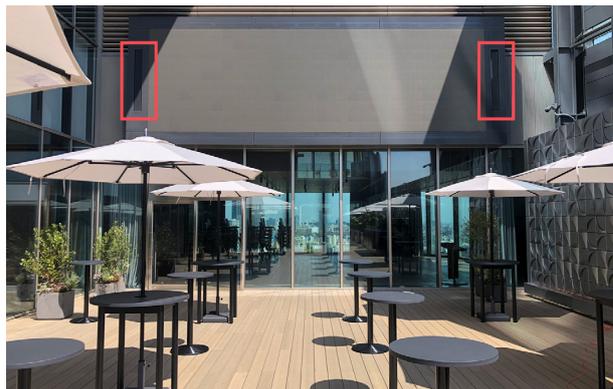
納入機材：

- TANNOY QFLEX 24 × 2 (ビームステアリング・パワード・コラムアレイ・スピーカー。24基ドライバー、DSP、PowerAmp搭載)
- KLARKTEKNIK DM8500 × 1 (ネットワークオーディオプロセッサ)
- KLARKTEKNIK DM TCE-UL × 1 (タッチスクリーン・ウォールコントローラー)

武内様、この度はTANNOY製品の導入をありがとうございました。まずはQFLEXを選んだ理由を教えてください

日本レディフュージョン 武内氏 (以下略「武内氏」)：このTERRACEは細長く奥行きがあり、音の狙いはLEDビジョン直下の3mあたりから25m先までという要望がありました。そういうことであればビームステアリングが最適ですし、QFLEXはほぼ真下にまで音を飛ばすことができます。もしほかのコラムスピーカーで同じことをしようとしたならば、遠くを狙うものと近くを狙うものの2種類を用意しないといけないでしょうね。

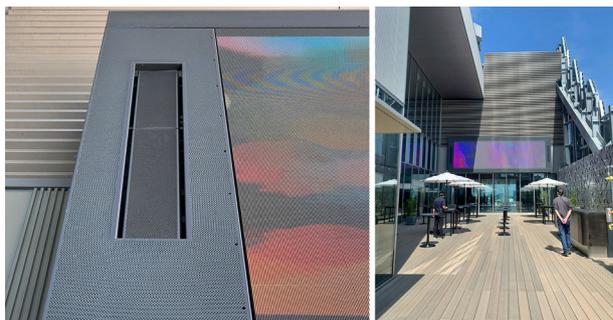
それから、私は以前から別案件で何度かTANNOY VLSシリーズを使った経験があったので、一度はQFLEXも使ってみたいと思っていました。



TERRACE (テラス)。赤□で囲んだ部分にQFLEX 24が収まっている

巨大ビジョンを備えた解放感溢れるルーフトップテラス。バーカウンターも常備され、パーティーやイベント会場としても使用可能です。細長く奥行きが25mほどあり、面積は318㎡。

このLEDビジョンの両脇にQFLEX 24が収まっています。音量コントロールとソース切り替えのためのプロセッサDM8500は屋内の機器ラックに。そしてコントロールパネルのDM TCE-ULは袖の屋外ボックスにあり、この2か所から操作が可能です。



QFLEXはクラス最高峰の垂直方向±70°のビームステアリングが可能です。



一度は使ってみたかったQFLEXなのです。選定のために試聴デモも行われましたが、その時の様子を教えてください

武内氏：デモはTERRACEを作っている最中に行いました。まだ床も貼られていなくてLEDビジョンも付いていない状態でしたが、スピーカーをスタンドに立ててこの場で試聴を行いました。

ビルの施主様を始めとする関係者も同席されていて、ビームステアリングを使って音がコントロールできるという体験をしていただけたのもよかったです。

始めてQFLEXを聴いたときの感想はいかがでしたか？

武内氏：私の指示した通りに音圧が変えられて、こんなに音（のカバレッジ）をコントロールできるのかと、QFLEXのビーム性能に驚きました。音圧を測った時はエンタメ用途のフルレンジの音では厳しいと思いましたが、中域やスピーチは遠くまでとてもはっきり聴こえたため、Qflexでいけると確信しました。

昨今の屋外テラスイベントの人気の高まりから、このTERRACEでも様々なイベントを行うことが想定されています。フルレンジで音を鳴らす際は持ち込みPAができるように、DM8500とは別回線で、音響パネルにラインアウトの口が設けられているということです。

武内氏：ここでQflexを導入することを決めて、その後LEDディスプレイとQFLEXが収まった段階でもう一度 施主様と一緒に音を鳴らしたのですが、狙った通りのビーム性でしたね。この時は映画のPVを使って映像と音を確認しました。

ここまでのお話ではDM8500が出てきませんが、どういう理由で選定されたのでしょうか？

武内氏：最初はQflexだけを導入する予定でしたが、店舗のスタッフ様が音量をコントロールできるよという要望が出たため、DM8500を導入しました。音量コントロールとソースの切り替えをできるようにしています。

SPACE WEST (多目的ホール)



アビックス株式会社様のHPより転載

多目的に使える「SPACE WEST」。TERRACE同様LEDビジョンの両脇にQFLEXが収まっている

パーティーなどで使用できる多目的ルーム。231m²。写真左側の大きなガラス窓を開放するとその外につながるテラス100m²と一体となり半オープンエアのスペースとして使用することができます。（このテラスはここまでご紹介したTERRACEとは別のものです。）天井に見える白色LEDの格子はフレームだけで実際は吹き抜けており、さらにこの上に天井が存在し、高い天井で解放感を感じるスペースとなっています。

納入機材：

- TANNQY QFLEX 16 × 2 (ビームステアリング・パワード・コラムアレイ・スピーカー。24基ドライバー、DSP、PowerAmp搭載)
- KLARKTEKNIK DM8500 × 1 (ネットワークオーディオプロセッサ)
- KLARKTEKNIK DM TCE-UL × 1 (タッチスクリーン・ウォールコントローラー)

先ほどと違いこちらは屋内ですね。機材選定のアプローチの違いについて教えてください

武内氏：これまでお話ししてきたTERRACEは完全にオープンエアで音が外に逃げてくれるためスピーカー位置からの反響はほとんどありません。さらに17階



QFLEXの取付。LEDビジョンのフレームに開いた窓へ裏側から入れている最中の様子。

裏側。白い柱はQFLEX本体のブラケット

なので騒音問題もないため考え方はシンプルでした。

しかし室内にあるこのSPACE WESTは天井がとても高く反響や残響が大きいのです。さらに正面写真の左壁面は高いところから床まで大きなガラス張りで吸音ができせん。

この場所は吸音材だけでなんとかするところではないと判断し、ビームステアリングによって音を下にだけ向けるという使い方をしています。

狙った箇所だけに音を届けてそれ以外には拡散させない。理想的なビームステアリングの使い方をしてくださっているんですね

武内氏：ビームステアリングをすごく絞り込んで、ある程度制御した音量で流すことでうまくいきました。例えばこれが一般的な12インチの2wayフルレンジスピーカーだったならば、スピーカーから離れた人に聞かせるために音圧を上げることになり、結果的に音が散らばって響きが大きくなってしまいます。

ここにもDM8500とコントローラーが設置されているということですね

武内氏：同じ店舗であれば同じスタッフさんが使用するだろうということで、操作性を合わせるためにSPACE WESTにもDM8500とDM TCE-ULを入れています。これはボリュームコントロールだけの操作に限定しています。



機材室のDM8500(上)。下は中音を確認するためのラック用モニタースピーカー。(施工時)

武内様、この度は貴重なお話をありがとうございました

屋内外の異なる様々な条件をクリアするために、日本レディフュージョン株式会社 武内様はQFLEXとDM8500を選びました。意匠性を追求した空間の音響的課題を乗り越えていくTANNQYのビームステアリングスピーカーQFLEXの活躍が今後も期待できます。

Dining & Bar JAM17 ※ HOTEL GROOVE SHINJUKU, A PARKROYAL Hotelが運営
東京都新宿区歌舞伎町1-29-1 東急歌舞伎町タワー 17F
<https://www.hotelgroove.jp/jam17/>

アビックス株式会社
神奈川県横浜市中区弁天通6-85 4F <https://avix.co.jp/>

日本レディフュージョン株式会社
東京都台東区柳橋1-5-5 8F <https://www.nrlmusic.co.jp/>